



2024年8月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年4月12日

上場会社名 マテリアルグループ株式会社 上場取引所 東
コード番号 156A URL <https://materialgroup.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役CEO (氏名) 青崎 曹
問合せ先責任者 (役職名) 取締役CFO (氏名) 吉田 和樹 TEL 03 (6869) 1100
四半期報告書提出予定日 2024年4月12日 配当支払開始予定日 -
四半期決算補足説明資料作成の有無：有
四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年8月期第2四半期の連結業績（2023年9月1日～2024年2月29日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年8月期第2四半期	2,669	-	432	-	412	-	275	-
2023年8月期第2四半期	-	-	-	-	-	-	-	-

(注) 包括利益 2024年8月期第2四半期 275百万円 (-%) 2023年8月期第2四半期 100百万円 (-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年8月期第2四半期	28.02	-
2023年8月期第2四半期	-	-

(注) 1. 当社は、2023年8月期第2四半期については四半期連結財務諸表を作成していないため、2023年8月期第2四半期の数値及び対前年同四半期増減率並びに2024年8月期第2四半期の対前年同四半期増減率は記載しておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、当社株式は2024年8月期第2四半期連結会計期間末において非上場であり、期中平均株価が把握できないため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年8月期第2四半期	2,891	1,707	59.0
2023年8月期	2,637	1,432	54.2

(参考) 自己資本 2024年8月期第2四半期 1,706百万円 2023年8月期 1,430百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年8月期	-	0.00	-	0.00	0.00
2024年8月期	-	0.00	-	-	-
2024年8月期（予想）	-	-	-	25.06	25.06

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2024年8月期の連結業績予想（2023年9月1日～2024年8月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,772	24.0	1,091	52.9	1,037	49.2	750	71.3	76.16

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 ー社（社名）ー、除外 ー社（社名）ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

（注）詳細は、添付資料P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年8月期2Q	9,827,197株	2023年8月期	9,827,197株
② 期末自己株式数	2024年8月期2Q	ー株	2023年8月期	ー株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年8月期2Q	9,827,197株	2023年8月期2Q	ー株

（注）2023年8月期第2四半期については、四半期連結財務諸表を作成していないため、期中平均株式数を記載しておりません。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

業績予想の前提となる条件及び業績予測のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(セグメント情報等)	8
(重要な後発事象)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症対策と行動制限の緩和による経済活動の両立により景気は緩やかに回復の動きが見られたものの、世界的な資源・原材料価格の高騰や為替変動等、景気の先行きは依然として不透明な状況が続いております。このような環境下において、当社グループは、「Switch to Red」（個性に情熱を灯し、価値観や常識を変え、世界を熱くする。）をビジョンとして、マーケティングコミュニケーション（注1）領域においてPR発想/ストーリーテリング（注2）をコアとして顧客のブランドの成長を支援する事業を引き続き行っており、顧客のブランド価値の最大化への貢献に取り組んでおります。

当第2四半期連結累計期間につきましては、当社グループでは引き続き積極的な採用、案件管理体制の強化を行い、各事業の規模拡大を図りました。また前連結会計年度から引き続き、PRコンサルティング事業とデジタルマーケティング事業の連携を深め、顧客のマーケティング課題全般に対して、デジタルを起点にしたコンサルティング業務の提供、PRコンサルティング事業で培ったPR発想/ストーリーテリングを活かしたデジタル広告運用支援及びクリエイティブ制作業務の提供に注力しました。

加えて継続して当社グループ全体として価値提供を行うため、顧客の持つマーケティングコミュニケーション全体における課題に対する当社グループサービスの複数提供に積極的に取り組みました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の当社グループの経営成績は、売上高2,669,358千円、営業利益432,225千円、経常利益412,869千円、親会社株主に帰属する四半期純利益275,391千円となっております。

セグメント別の経営成績は、次のとおりであります。

(PRコンサルティング事業)

同事業に属する株式会社マテリアルについて、当第2四半期連結累計期間は、代理店を通じた取引、直接販売取引ともに堅調に推移し、既存顧客からのリピート発注に加え、様々な業種の新規顧客の獲得が進みました。また前連結会計年度から引き続きデジタルマーケティング事業との連携によってデジタル領域を起点にしたマーケティングコミュニケーションの戦略設計及び実行支援にも引き続き注力しました。また、同事業に属する株式会社ルームズについて、当第2四半期連結累計期間では引き続き新規顧客の獲得に注力しました。加えて、キャンドルウィック株式会社をM&Aにより子会社化し、同事業の拡大に努めました。

以上の結果、セグメント売上高は2,280,800千円、セグメント利益は528,213千円となりました。

(デジタルマーケティング事業)

当第2四半期連結累計期間では、PRコンサルティング事業との連携を深め、顧客のマーケティング課題全般に対して、デジタルを起点にしたコンサルティング業務の提供、PRコンサルティング事業で培ったPR発想/ストーリーテリングを活かしたデジタル広告運用支援及びクリエイティブ制作業務の提供に注力しました。また引き続きWeb接客ツール（注3）「Flipdesk」の販売にも注力しました。

以上の結果、セグメント売上高は250,813千円、セグメント利益は82,260千円となりました。

(PRプラットフォーム事業)

当第2四半期連結累計期間では引き続き広報支援プラットフォーム「CLOUD PRESS ROOM」の営業活動の強化と各種広告宣伝による認知度向上施策を行い、新規IDの獲得に注力しました。また前連結会計年度にM&Aにより子会社化した株式会社PRASのフリーランサープラットフォーム事業においても、新規顧客の獲得に注力しました。

以上の結果、セグメント売上高は168,203千円、セグメント利益は1,516千円となりました。

- (注) 1. マーケティングコミュニケーションとは、ブランド・商品・サービスとそのステークホルダーが双方にコミュニケーションを取りながら行う販売促進等の活動を指し、その手法には、広告やプロモーション、PR、デジタルマーケティング等が含まれております。
2. PR発想/ストーリーテリングとは、トライブ（共通の価値観や興味を持つ人々が集まってできるコミュニティ）から逆算した情報流通設計により、より多くの人と深い関係性を構築しやすい発想術と定義しております。
3. Web接客ツールとは、サイトに訪問したユーザーの訪問/閲覧/購買履歴データをもとに、訪問者の興味趣向を把握し、サイト上で訪問者に対して適切な情報訴求を行い、サイトからの離脱防止・サイト内の回遊促進・コンバージョン率向上の効果が見込めるサービスを指しております。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ254,168千円増加し、2,891,850千円となりました。主な要因は、電子記録債権が127,361千円減少した一方、売掛金が160,224千円増加したこと、キャンドルウィック株式会社の取得等によりおのれんが132,773千円増加したこと、現金及び預金が109,236千円増加したこと等によるものです。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べ21,223千円減少し、1,184,452千円となりました。主な要因は、未払法人税等が77,304千円増加した一方、支払手形及び買掛金が67,699千円減少、前受金が51,123千円減少、長期借入金が20,267千円減少したこと等によるものです。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ275,391千円増加し、1,707,398千円となりました。主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により利益剰余金が275,391千円増加したことによるものです。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、前連結会計年度末より109,236千円増加し、724,110千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、270,673千円となりました。主な要因は、税金等調整前四半期純利益の計上418,327千円、おのれん償却額の計上24,493千円、減価償却費の計上17,668千円等があった一方で、仕入債務の減少102,257千円、前受金の減少56,313千円、法人税等の支払額83,872千円等があったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、88,782千円となりました。主な要因は、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出93,157千円等があったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、72,654千円となりました。主な要因は、長期借入金の返済による支出61,334千円等があったことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2024年3月29日の「東京証券取引所グロース市場への上場に伴う当社決算情報等のお知らせ」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

なお、本資料に記載されている業績予想等は、当社が発表日現在において入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年8月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2024年2月29日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	614,873	724,110
受取手形	11,329	—
電子記録債権	275,671	148,310
売掛金	575,786	736,011
仕掛品	32,061	39,525
前払費用	62,879	59,074
その他	113,760	79,805
貸倒引当金	△531	△736
流動資産合計	1,685,829	1,786,100
固定資産		
有形固定資産	58,687	52,618
無形固定資産		
のれん	465,280	598,053
その他	40,638	46,228
無形固定資産合計	505,918	644,281
投資その他の資産		
敷金及び保証金	166,394	169,058
繰延税金資産	168,506	186,934
出資金	40,000	—
その他	12,345	52,857
投資その他の資産合計	387,246	408,849
固定資産合計	951,852	1,105,750
資産合計	2,637,682	2,891,850
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	308,330	240,630
1年内返済予定の長期借入金	118,474	126,862
未払金	237,893	243,767
未払法人税等	79,475	156,779
前受金	67,082	15,959
賞与引当金	6,666	6,666
その他	105,778	83,224
流動負債合計	923,700	873,890
固定負債		
長期借入金	256,382	236,115
その他	25,593	74,446
固定負債合計	281,975	310,561
負債合計	1,205,675	1,184,452
純資産の部		
株主資本		
資本金	90,000	90,000
資本剰余金	371,429	371,429
利益剰余金	969,392	1,244,784
株主資本合計	1,430,822	1,706,214
新株予約権	1,184	1,184
純資産合計	1,432,006	1,707,398
負債純資産合計	2,637,682	2,891,850

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年9月1日 至 2024年2月29日)
売上高	2,669,358
売上原価	1,095,930
売上総利益	1,573,428
販売費及び一般管理費	1,141,202
営業利益	432,225
営業外収益	
受取利息	10
受取手数料	619
その他	808
営業外収益合計	1,437
営業外費用	
支払利息	2,020
上場関連費用	11,320
子会社株式取得関連費用	5,448
その他	2,005
営業外費用合計	20,794
経常利益	412,869
特別利益	
出資金清算益	5,457
特別利益合計	5,457
税金等調整前四半期純利益	418,327
法人税等	142,935
四半期純利益	275,391
親会社株主に帰属する四半期純利益	275,391

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年9月1日 至 2024年2月29日)
四半期純利益	275,391
四半期包括利益	275,391
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	275,391

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年9月1日 至 2024年2月29日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	418,327
減価償却費	17,668
のれん償却額	24,493
受取利息	△10
支払利息	2,020
上場関連費用	11,320
出資金清算益	△5,457
売上債権の増減額 (△は増加)	19,015
仕入債務の増減額 (△は減少)	△102,257
未払金の増減額 (△は減少)	1,647
前受金の増減額 (△は減少)	△56,313
その他	△9,712
小計	320,742
利息の受取額	10
利息の支払額	△2,020
法人税等の還付額	35,813
法人税等の支払額	△83,872
営業活動によるキャッシュ・フロー	270,673
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△1,444
無形固定資産の取得による支出	△14,366
敷金及び保証金の差入による支出	△1,568
敷金及び保証金の返還による収入	389
短期貸付金の回収による収入	1,000
出資金の回収による収入	45,457
事業譲受による支出	△25,171
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△93,157
その他	78
投資活動によるキャッシュ・フロー	△88,782
財務活動によるキャッシュ・フロー	
長期借入金の返済による支出	△61,334
上場関連費用の支出	△11,320
財務活動によるキャッシュ・フロー	△72,654
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	109,236
現金及び現金同等物の期首残高	614,873
現金及び現金同等物の四半期末残高	724,110

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当第2四半期連結累計期間（自 2023年9月1日 至 2024年2月29日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	PRコンサル ティング事業	デジタルマー ケティング事 業	PRプラットフ ォーム事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	2,280,800	249,217	139,340	2,669,358	—	2,669,358
セグメント間の内部売 上高又は振替高	—	1,596	28,862	30,458	△30,458	—
計	2,280,800	250,813	168,203	2,699,817	△30,458	2,669,358
セグメント利益	528,213	82,260	1,516	611,990	△179,764	432,225

(注) 1. セグメント利益の調整額△179,764千円には、セグメント間取引消去6,023千円及び報告セグメントに配分していない全社費用△185,787千円が含まれております。全社費用の主なものは報告セグメントに帰属しない管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

「PRコンサルティング事業」セグメントにおいて、2023年11月30日付でキャンドルウィック株式会社の株式を取得したため連結の範囲に含めております。なお、当該事象によるのれんの増加額は137,267千円であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

(公募による新株式の発行)

当社は、2024年3月29日付で東京証券取引所グロース市場に株式を上場いたしました。この上場にあたり、2024年2月22日及び2024年3月12日開催の取締役会において、新株式の発行を次のとおり決議し、2024年3月28日に払込が完了しました。

(1) 募集方法	一般募集（ブックビルディング方式による募集）
(2) 発行する株式の種類及び数	普通株式 50,000株
(3) 発行価格	1株につき 1,180円（注）1
(4) 引受価額	1株につき 1,085.6円（注）2
(5) 資本組入額	1株につき 542.8円
(6) 発行価格の総額	59,000千円
(7) 引受価額の総額	54,280千円
(8) 資本組入額の総額	27,140千円
(9) 払込期日	2024年3月28日
(10) 資金の使途	連結子会社である株式会社マテリアル及び株式会社マテリアルデジタルへの投融資として充当する予定であります。具体的には上記子会社において、今後の持続的な成長に資する人材の確保を目的とした採用費・研修費に充当する予定であります。

- (注) 1. 一般募集はこの価格にて実施いたしました。
2. この価額は当社が引受人より1株当たりの新株式払込金として受け取った金額です。なお、発行価格と引受価額との差額の総額は、引受人の手取金となります。